

ごみ有料化の対象と方法について

1 他都市における家庭ごみ等有料化の導入事例

- 調査日 平成21年9月30日～平成21年10月16日
- 調査対象 有料化を実施している中核市および県内市町村
- 回答率 100%(調査数－中核市8市、県内6市・7町・1村)

【中核市:8市】

市名 実施時期	家庭ごみ		資源化物		
	対象区分	価格	対象区分	有料化の有無	価格
旭川市 H19	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	40L袋 80円/枚		×	
函館市 H14	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	40L袋 80円/枚		×	
長野市 H21	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	(可燃ごみ) (不燃ごみ) 40L袋 49円/枚 30L袋 37円/枚		×	
高松市 H16	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	40L袋 40円/枚		×	
下関市 H15	<可燃ごみ> ※不燃ごみは 100円/枚:納付券	45L袋 45円/枚	<缶><びん><ペットボトル> <古紙類><その他>	○	45L袋 20円/枚
久留米市 H5	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	30L袋 25円/枚		×	
宮崎市 H14	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	40L袋 40円/枚		×	
熊本市 H21	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 35円/枚		×	

※< >は分別している区分を示す。

※長野市は平均価格。

【秋田県内:14市町村】

市町村名 実施時期	家庭ごみ		資源化物		
	対象区分	価 格	対象区分	有料化の有無	価 格
能代市 H13	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 40円/枚		×	
潟上市 H17	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	(可燃ごみ) (不燃ごみ) 45L袋 33円/枚 45L袋 23円/枚		×	
大仙市 H20	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 40円/枚		×	
由利本荘市 H19	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 30円/枚		×	
横手市 H19	<可燃ごみ>	45L袋 31.5円/枚	<その他プラ> ※<缶><びん><ペットボトル> <古紙類><布・衣類>については無料	○	45L袋 21円/枚
湯沢市 H17	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	(可燃ごみ) (不燃ごみ) 45L袋 33.3円/枚 40L袋 50円/枚	<ペットボトル><その他プラ> ※<缶><びん><古紙類> については無料	○	40L袋 20円/枚
藤里町 H12	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	(可燃ごみ) (不燃ごみ) 45L袋 36円/枚 45L袋 22.5円/枚	<缶><びん><ペットボトル> ※<古紙類>については無料	○	45L袋 22.5円/枚
八峰町 H15	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 36円/枚		×	
三種町 H9	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 30円/枚	<缶><びん>は不燃ごみ袋を使用 <ペットボトル>は可燃ごみ袋を使用	○	45L袋 30円/枚
八郎潟町 H7	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 50円/枚	<缶><びん><ペットボトル> ※<古紙類>については無料	○	45L袋 50円/枚
五城目町 S45	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	大 袋 40円/枚	<缶><びん><ペットボトル> ※<古紙類>については無料	○	大 袋 40円/枚
美郷町 H21	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	45L袋 40円/枚		×	
羽後町 H6	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	48L袋 33円/枚	<その他プラ> ※<缶><びん><ペットボトル> <古紙類>については無料	○	52L袋 20円/枚
大潟村 H7	<可燃ごみ> <不燃ごみ>	(可燃ごみ) (不燃ごみ) 45L袋 50円/枚 45L袋 37.5円/枚	<缶><びん><ペットボトル> <その他プラ> ※<古紙類>については無料	○	45L袋 37.5円/枚

※< >は分別している区分を示す。

注) 五城目町は袋のリットル表示なし

中核市及び秋田県内市町村において、家庭ごみ有料化を実施している自治体の調査結果は次のとおりです。

2 有料化の対象範囲

「可燃ごみ」と「不燃ごみ」の、いわゆる家庭ごみを有料化の対象としている自治体が多い。

3 有料化の方式

(1) 手数料の徴収方法

「有料指定ごみ袋制度」を、ほとんどの自治体で採用している。
 ※ 住民が有料指定ごみ袋を購入し代金を支払うことで手数料を徴収する方法。

(2) 手数料の料金体系

「単純比例型」を、ほとんどの自治体で採用している。

単純比例型

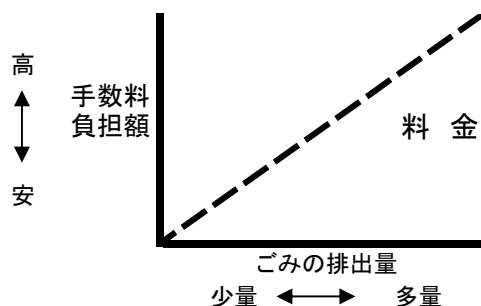
・ごみ袋の容量に応じた手数料を設定し、ごみの排出量に比例して手数料を負担するもの。

《制度運営上の利点》

- 制度がシンプルでわかりやすい。
- 制度の運用に要する費用が安価である。
- 多くの市町村で導入実績がある。

《制度運営上の課題》

- 料金水準が低い場合は、排出抑制につながらない可能性がある。



一定量無料型

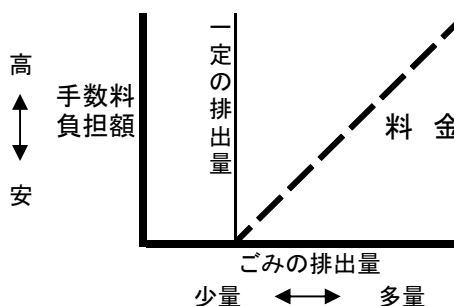
・排出量が一定量となるまでは、手数料が無料。一定量を超えると排出量に比例して手数料を負担するもの。

《制度運営上の利点》

- 一定の排出量以上のみを従量制とすることで、特にその量までの排出抑制が期待できる。

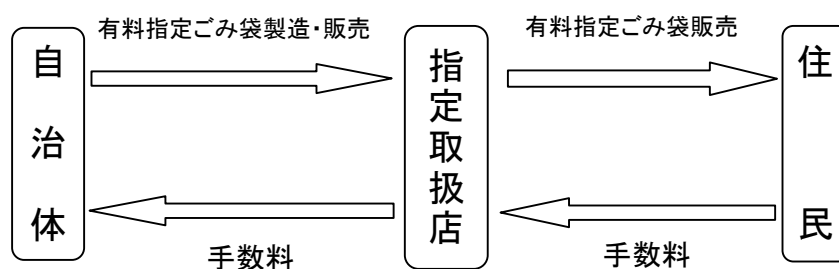
《制度運営上の課題》

- 手数料負担が無料となる一定の排出量まで、排出量を抑制する動機付けが働きにくい。



(3) 手数料の収納方法

《有料指定ごみ袋制度》



・販売する有料指定ごみ袋の納品量等に応じて指定取扱店から自治体へ納入

4 手数料の設定

- ・ 家庭ごみの処理費用に一定率を乗じ、手数料を設定する方法。
- ・ 周辺自治体との手数料水準の整合性を図り、手数料を設定する方法。

5 有料指定ごみ袋

(1) サイズ

各自治体で作製している袋のサイズを分類すると、大袋・中袋・小袋の3種類としているところが多い。また、中袋と小袋の2種類のみを採用や極小袋を製造する等、容量の少ないサイズを採用している自治体もみられる。

なお、今回の調査では、45Lを超えるサイズの袋は、採用例がなかった。

分類	大袋	中袋	小袋
容量	45L～40L	30L～20L	15L～10L

本市調査 平成21年10月

(2) 形態

有料指定ごみ袋の形態は、取扱いやすさから取っ手付きの袋を作製している自治体が多い。

区分	中核市	県内市	県内町村
取っ手付	7	5	2
平袋	0	0	3
併用	1	1	3

本市調査 平成21年10月

【参考】 取っ手付き有料指定ごみ袋の例

